特定非営利活動法人 冒険あそび場-せんだい･みやぎネットワーク

2015(平成27)年度　事業報告書

（2015年6月1日～2016年5月31日）

目次

＜参考図＞2015年度の課題と取組み（冒険あそび場だより2015より）　・・・・・・・・p.2

◎ 2015年度事業概要　・・・・・・・・・p.3

1.　子どもの育ちを支える地域活動を行なう団体や個人とのネットワークをつくり、
それを広げる事業　・・・・・・・・・p.4

2.　冒険あそび場の活動等に関する情報の収集・ならびに提供に係る事業　・・・・・p.5

3.　地域社会の子育て、遊びに係る調査・研究事業　・・・・・・・・・p.5

4.　冒険あそび場づくりへの相談・支援に係る事業　・・・・・・・・・p.6

5.　冒険あそび場の普及・啓発、及び運営に係る事業　・・・・・・・・・p.6

6.　プレーリーダーの養成に係る事業　・・・・・・・・・p.7

7.　子どもの遊び・成育に関わる施策提言に係る事業　・・・・・・・・・p.8

8.　行政との協働事業を含む先駆的、実験的なまちづくりや地域づくりの推進に係る事業
・・・・・・・・・p.8

9.　組織運営について　・・・・・・・・　p13

2015年度「住まいの復興」が進む中で

写真:「楽農村であそぼう」(岩沼市)

被災した方々の仮設住宅からの転居が急速に進んだ一年でした。「住まいの復興」が進む「5年目」ならではの課題に、遊び場づくりを軸に取り組みました。

新たな「まち」でのつながりづくり

復興公営住宅・集団移転先などの新たな「まち」では、あらためて人のつながりづくりをする必要がありました。

仮設住宅に残される人に寄り添う

仮設住宅では生活再建の見通しが立たない人が残される場合が多く、そのフォローが不可欠になりました。

現地再建地域の元気を取り戻す

津波被害を受けつつも現地再建が可能なやや内陸の地域には徐々に住民が戻ってきました。ただ、震災前からは激減しており、いかに地域の元気を取り戻すかが課題になっています。

学校の統廃合が進む

2015年度、仙台市沿岸部で津波被害を受け他校に間借りして再開していた3校のうち、荒浜小学校は七郷小学校へ統合、中野小学校は閉校となりました。東六郷小学校も2016年度で六郷小学校に統合されます。

新たな「まち」での交流の場づくり

様々な地域から住民が集まる新たな「まち」で、ゆるやかにつながれる屋外の遊び場の強みを活かして、子どもから大人まで多様な交流が生まれる場づくりに取り組みました。主に大人を対象にした交流サロン「縁側倶楽部」や、町内会施設を利用した乳幼児親子対象の遊び場なども実施することで、交流の幅が大きくひろがっています。

仮設住宅での交流の場づくり

仮設住宅でも多世代が交流できる場としての遊び場づくりに取り組みました。「縁側倶楽部」も開催して、ものづくり・お茶っこのみを通した大人の心のケアや、遊び場に来る子どもと大人のつながりづくりに取り組みました。

田園地域の魅力に光を当てる

岩沼市の現地再建地域では、自然豊かな環境を活かした遊び場を定期的に開催しました。都市部から遊びに来る親子も多く、交流を促進していると共に地域の魅力を再認識する機会にもなっています。また2015年度は東六郷小現地での遊び場も始めました。

遊び場でつながる子ども

中野小では、震災の影響で離れ離れの場所への転居を余儀なくされた子どもたちが、放課後スクールバスの発車時間まで一緒に遊べる場づくりを、閉校直前まで継続しました。統合される荒浜小・東六郷小については、移転先の学区での遊び場が子ども同士の顔の見える関係づくりにつながっています。東六郷小は、授業への協力を行いました。

仙台市若林区 七郷地域での取り組み

＜遊び場＞
- 伊在二丁目公園 あそび場(伊在二丁目公園　毎週水曜)
- ままandぱぱかほえ(伊在二丁目公園　第1・3水曜)
- 七郷あそび場(荒井4号公園　毎週土曜)
- 荒井東復興公営住宅のひろばであそぼう(荒井東復興公営住宅　月2回～4回)

＜乳幼児親子対象の遊び場＞
- 上荒井公会堂あそびば「ちびひろ」(上荒井公会堂　毎週木曜)
- 下荒井公会堂であ・そ・ぼ♪(下荒井公会堂　第2・4月曜)

＜交流サロン＞
- 荒井東 縁側倶楽部(荒井東復興公営住宅集会所　第4日曜)

- 復興公営住宅・集団移転先のある地域での活動
- 仮設住宅のある地域での活動
- 現地再建地域にかかわる活動
- 統廃合対象の小学校にかかわる活動

仙台市若林区 六郷地域での取り組み

＜遊び場＞
- ニッペリアあそび場(若林日辺グラウンド応急仮設住宅　毎週木曜)
- 六郷あそび場(仙台市立 六郷小学校　毎週日曜)
- 六郷ねずみさんのまったりサロン(仙台市立 六郷小学校　第2日曜)
- 東六郷小であそぼう(仙台市立 東六郷小学校 本校　3/20・27)

＜交流サロン＞
- えっちゃん&おかんの縁側倶楽部(若林日辺グラウンド応急仮設住宅　月1回)
- 大内さんちの居久根プロジェクト(二木地区 大内 氏 農園　5/19～21・28・29、11/15、3/15)

仙台市のその他の地域での取り組み

＜遊び場＞
- 若林小あそび場(若林区 仙台市立 若林小学校　月1回程度)
- 若林西縁側倶楽部(若林区 若林西復興公営住宅　11/16、2/17)
- 卸町五丁目あそび場(若林区 卸町五丁目公園仮設住宅　毎週土曜)
- 冒険あそび場 in 若林区文化センター(若林区 若林区文化センター、若林区ふるさと広場　8/9)
- 中野小あそび場(宮城野区 仙台市立 中野小学校　月1回程度)
- のりっぱで遊んでみよう(青葉区 まちなか農園藤坂「のりっぱ」　11/15、12/19、1/10、3/20)

＜交流サロン＞
- 卸町五丁目縁側倶楽部(若林区 卸町五丁目公園仮設住宅　6/17)

岩沼市での取り組み

＜遊び場＞
- 里の杜あそび場(里の杜中央公園　第2・4水曜　第4日曜)
- 楽農村であそぼう!(産直朝どり＋楽農村　月1回程度)
- 玉浦西あそび場(うぐいす公園・東集会所　11/14)

＜交流サロン＞
- 里の杜あそび場 縁側倶楽部(里の杜 東住宅・西住宅・東住宅　月1回)※2015年6月4日 終了
- 産直朝どり＋楽農村「グリーンリーフ」協力(産直朝どり＋楽農村　第2・4火曜)

2015年度事業概要

東日本大震災５年目の2015年度、私たちが中心的に活動する仙台市・岩沼市では、復興公営住宅の整備も概ね完了、集団移転先への住宅の建設も進むなど、多くの人が仮設住宅から「恒久住宅」へ移り住むこととなった。「住まいの復興」が進んだ一年だったと言われている。一方子どもたちの生活環境としての学校に目を移すと、仙台市沿岸部の被災小学校の統廃合が進んだ年でもある。まだまだ厳しい環境にある子どもたちも少なくなかった。

そんな中、2015年度事業は、引き続き仙台市・岩沼市近郊を中心とした沿岸地域の遊び場づくりが基軸となった。上記の状況を意識し、①「新たなまち」でのつながりに寄与していくこと、②一方で仮設住宅に残らざるを得ない人たちのフォローを継続すること、③浸水区域での現地再建を選んだ人たちを支えること、④人数も減少した統合対象の学校の子どものフォローなどを意識して活動に取り組んだ。プレーカーを活用した子どもの遊び場活動と、大人を対象とした「縁側倶楽部」など交流サロンの活動を連携させながら、子どもを中心に世代を越えた交流の場を生み出した。前年度にスタートした「新たなまち」や現地再建地域での取り組みも、確実に定着してきつつある。

また今年度は、「震災後」を見据えて、続けていく遊び場／終了する遊び場など模索していった一年だった。岩沼市の「里の杜あそび場」や若林区の「上荒井公会堂あそび場『ちびひろ』」のように、長く続いていくものにすることを目指して、地域に引き継いでいく一歩踏み出したところもある。一方、いよいよ終期に入った仮設住宅での活動は、2015年度中に全て終了した。なお、終了した遊び場においても、一定範囲の中で複数の遊び場を展開している強みを活かして、可能な限り転居した先でつながっていけるようにフォローしている。

日本公園緑地協会と共に取組む復興庁の「新しい東北」先導モデル事業の取組みは、最終年度となった。本年度は、他の遊び場活動団体と連携した支援ネットワーク構築や、地域主体の遊び場づくりにも踏み込んで実践・検証した。全国で遊び場づくりの取り組みがひろがる後押しになることを期待したい。

2018(平成 30)年の再開予定の海岸公園冒険広場は、いよいよ復旧工事が始まった。周辺の海岸林・貞山堀の工事も進む。再開を見据え、震災の記憶の保存・記録や環境の再生のために尽力すると共に、地元の小学校はじめ現状を伝えていくことにも力を入れた一年だった。12月には地下鉄東西線が開業すると共に荒井駅への震災メモリアル施設も完成、またみどりの再生や集団移転跡地利用など沿岸部での動きが活発になってきた。冒険広場に足場を置きつつも、それらの動きを注視しながら連携した取り組みを行っている。

◎ 事業計画に掲げた「重点的取り組み」の達成度評価について

2015 年度事業計画において掲げた６つ重点的取り組みについて、４段階の達成度評価を行なった。
定款に沿った事業区分に基づく「１．～ ９．」の記載内容との対照と合わせ、本表にまとめる。

「重点的取り組み」項目	主な事業 （定款区分による）	達成度評価 （◎−〇−△−×の４段階）
①被害の大きかった地域を中心に取り組む遊び場づくり ー「仮設」住宅から「恒久」住宅への移行の完了を見据えて	事業１． 事業８．⑵⑶⑷	◎ 「恒久」住宅となる地域での遊び場を展開すると共に、仮設住宅でも最後まで活動した。
②海岸公園の再開を見据えた、冒険広場周辺での取組み	事業８．⑴⑸⑹⑺	◎ 概ね達成
③「震災後」も見据えた、新たな拠点確保への取組み	事業７．	〇
④ ボランティアの輪をひろげ、地域住民の主体的取り組みを促す	事業１． 事業６．	◎ 一部の遊び場は、住民運営へ移行を試みている。また、新たな取り組みは、住民発意の物を応援する形にしている。
⑤ 被災地域で取り組まれる遊び場づくりとの連携	事業４． 事業５．⑵	◎ 西公園プレーパークと連携した「新しい東北」先導モデル事業での取り組みなども行った。
⑥組織運営基盤づくり	⑼.組織運営について)	△ 中長期ビジョンについては、現在検討中。寄付者・会員増加に向けた取り組みが課題である。

１．子どもの育ちを支える地域活動を行なう団体や個人とのネットワークをつくり、それを広げる事業

⑴**事業実施にあたっての、連携組織の構築**：地域コミュニティ活動を活用した被災者生活支援事業

宮城県被災者支援総合交付金を活用し、仙台市・岩沼市で連携組織を構築、意見交換を行うと共に、連携して事業を実施した。2013 年度から行ってきた社会的包摂・「絆」再生事業は 2015 年４月より「地域コミュニティ活動を活用した被災者生活支援事業」となり、本連携組織は継続する。構成は、それぞれ以下の通り。

①仙台市
- 卸町五丁目公園仮設住宅町内会
- ニッペリア仮設住宅自治会
- 一般社団法人 ReRoots
- 若林区社会福祉協議会
- 仙台市市民協働推進課
- 仙台市若林区まちづくり推進課

②岩沼市
- 岩沼市被災者生活支援室
- 岩沼市子ども福祉課
- 岩沼市里の杜サポートセンター
- 岩沼市社会福祉協議会 復興支援センタースマイル
- いわぬまあそび場の会
- 宮城県心のケアセンター

⑵**その他、他団体とのネットワーク**

＊宮城県子ども支援会議　参加
＊若林復興の輪ミーティング　参加（主催：若林区社会福祉協議会）
＊災害子ども支援ネットワークみやぎ　世話人・賛同団体
＊粋々まちなかプロジェクト主催事業への参加・協力・名義後援
＊せんだいファミリーサポートネットワークとの乳幼児事業における連携（事業 8.⑵の③・⑤等）
＊ふるさとの杜再生プロジェクト　委員
＊地下鉄東西線開業イベント実行委員会　委員

その他、事業 8．の各事業実施にあたっては、地域団体、NPO、児童館、市民センター、小学校等、多くの団体と連携を行なった。

２．冒険あそび場の活動等に関する情報の収集・ならびに提供に係る事業

⑴ 宮城県内外の冒険遊び場活動についての情報収集

理事会を中心とした従来からの仙台市周辺の冒険遊び場活動についての情報交換に加え、遊び場活動の支援（事業４．・ 事業５．）やプレーリーダー養成講座（事業６．）、日本冒険遊び場づくり協会総会⑹月、山形県東根市で開催）への出席なども通じ、被災地域を中心にひろがりを見せる県内外の遊び場づくり活動の情報を収集した。

⑵ ホームページ等での発信

昨年度スタートした facebook ページや理事・プレーリーダーのブログとも連携させながら情報発信を行なった。

⑶「冒険あそび場ネットだより 2014」の発行

2015 年７月、前年度の活動をとりまとめ発行した。NPO 法人化 10 年に合わせ、これまでの活動を振り返る特集を組み、発信した。

⑷ 取材・報道等への協力

事業８.「海岸公園冒険広場の運営」「冒険広場周辺地域で開催する遊び場」を中心に、新聞・ラジオ等の報道に協力した。また、その他情報誌等のメディアの取材に協力した。

〈新　聞〉
- ５月 30 日 河北新報「大地再生へ～園児被災田で田植え」
- 10 月 11 日 産経新聞「巡る遊び場 笑顔も巡る」
- 12 月　３日 河北新報「新しい電車わくわく～仙台・親子で応援イベント」
- ３月 11 日 河北新報「遊び場づくりやお茶っこのみ、気持ちふれあうつながり、少しずつ。」
  （特集紙面「東日本大震災から５年　この日、思いは集う」内）
- ５月　３日 河北新報「『避難の丘』第１号完成 若林・井土の公園 高さ 15 メートル」

〈ラジオ〉
- ９月　５日 ラジオ３：ラヂオはいらいん若林「冒険遊び場 in 若林区文化センター」

〈テレビ〉
- ７月 13 日 ジェイコムＴＶ「地域情報番組ゴゴイチ☆スタジオ」
  …ロコ・サトシさんペイントワークショップについて
- ８月 17 日 ジェイコムＴＶ「地域情報番組ゴゴイチ☆スタジオ」
  …冒険遊び場 in 若林区文化センターについて

〈その他〉
- ９月 みやぎ県政だより９･10 月号
  「復興へ―復興に向けて、県内の各地域で活動されている方々を紹介―」
- ２月 復興庁「『新しい東北』先導モデル事業事例集 vol.2」
  「町中に子どもたちの声があふれる。“遊び”が繋ぐ地域の輪」

３．地域社会の子育て、遊びに係る調査・研究事業

◎ 復興庁「新しい東北」先導モデル事業の一環としての遊び場づくり調査

「新しい東北」先導モデル事業の公募に対し一般社団法人日本公園緑地協会と共同で申請し選定された「健やかな子どもの成長を育む地域の遊び場づくり事業」の一環で、以下に取り組んだ。

- 住民ボランティア協働による遊び場づくり活動のモニタリング
- 「健やかな子どもの成長を育む身近な遊び場のあり方」モデル像の構築

４．冒険あそび場づくりへの相談・支援に係る事業

遊び場づくり団体、その他NPO、行政、小学校、研究者等から寄せられる下記のような各種相談に対応、必要に応じ具体的な支援も行なった。

・遊び場づくりへの協力依頼　　→事業５．「宮城県を中心とした遊び場活動の支援」
・遊び場づくりへのアドバイス
・遊び場スタッフの研修 講師派遣　　やまがた育児サークルランド（山形市・べにっこひろば）
　　クリエイトひがしね（東根市・あそびあランド）
　　柴田町観光物産協会「太陽の村を冒険遊び場として」講演会
・小学校の授業協力　東六郷小学校総合学習「のこそう伝えよう東六郷」 9/9・9/30・4/26
　　七郷小学校「防災安全科」 11/27・12/1
・研究者・学生からのヒアリングへの対応

５．冒険あそび場の普及・啓発、及び運営に係る事業

⑴ 若林区を中心とした、プレーカーを活用しての遊び場の運営

指定管理者として運営する海岸公園冒険広場は現在も休園中だが、若林区六郷・七郷地域を中心に、プレーカーを活用しての遊び場を運営、2015 年度も新たな地域で活動を展開した。（→事業８．参照）

⑵ 宮城県を中心とした遊び場活動の支援

県内各地で始まっている市民レベルの遊び場づくりの取り組みを支援するため、プレーリーダー等を派遣した。また、復興支援行事等での遊び場実施の依頼にも協力している。

なお、こうした支援においては、日本冒険遊び場づくり協会の被災地支援事業や、その事業を引き継いだ「プレーワーカーズ」とも連携しながら取り組んだ。

①ふるじろプレーパークの会「ふるじろプレーパーク」
　7/23　7/24　8/30　11/29　12/13　2/28　5/29　７回　のべ 12 人派遣
②多賀城プレーパークの会「おそとであそぼうの会」　10/1　１回１人派遣
③「子どものまちいしのまき」ストリートパーティー　10/3･4　２日間　のべ２人派遣
④こみゅーんひろば・宮城総合支所保健福祉課「こみゅーんひろば」　2/7　１回２人派遣
⑤石巻寺子屋「こども王国」（大崎市三本木）　1/16　4/3　２回のべ３人派遣

⑶ 地域の子どもイベント等への参加

・泉中央駅前地区活性化協議会「泉子どもの日フェスティバル」 5/5

⑷ 杜々かんきょうプログラム実践

平成 21 年度に仙台市環境局･杜々かんきょう教育プログラムに提案をした幼児から対象とする環境プログラム「いろ色発見隊～季節のカメラマン」を、以下のように実践した。

実施団体	実施日	実施場所	対　象
福田町保育所	6/23(火)	福住公園	５才児：26 名
折立保育所	6/24(水)	折立公園	５才児：25 名
熊ヶ根保育所	10/ 6(火)	保育所付近	3.4.5 児：32 名
袋原保育所	10/ 7(水)	保育所周辺	4.5 才児：25 名

支倉保育所	10/15(木)	西公園	4.5 才児：28 名
飯田保育所	10/16(金)	近隣の広瀬川河原	4.5 才児：22 名
中田保育所	10/21(水)	保育園所近隣	4.5 才児：26 名
ますえの森どうわほいくえん	10/23(金)	園隣接の森	5 才児：11 名
能仁保児園	10/30(金)	新寺４丁目公園	5 才児：20 名
穀町保育園	11/4(水)	林香院	3 才児：15 人
根岸保育所	11/6(金)	大念寺山	5 才児：26 名
青山保育所	11/12(木)	保育所周辺	4.5 才児：24 名
桂こどもの城保育園	11/13(金)	桂中央公園	5 才児：20 名

6．プレーリーダーの養成に係る事業

2015 年度は、重点事業④として「ボランティアの輪をひろげ、地域住民の主体的取り組みを促す」を位置付け、人材育成を重点事業に位置付け取り組んだ。

⑴ 講座等の実施

主に、事業８．として実施する遊び場づくりの活動の中で、スタッフ・ボランティアを対象に下記講座を実施した。また、遊び場での実践も含め、遊びに関わる大人の育成に努めた。

実施日	内 容	講 師	実施枠組等	対 象
2015/ 7/ 3	応急手当講習	斉藤 信三氏 (当会プレーリーダー)	東日本再生ユースチャレンジ・プログラム	スタッフ インターン生
2015/10/ 9	ケガ対応の実際から学ぶ	（ケース会議）	地域コミュニティを活用した被災者生活支援事業	スタッフ
2015/10/19	子育て・自分育て講座 「子どもも大人もハッピーになる子育て」	金 香百合氏 (ホリスティック教育実践研究所)	赤い羽根チャリティホワイトプロジェクト	スタッフ ボランティア 一般
2015/11/10	支援者のためのメンタルヘルスケア講座	金 香百合氏 (ホリスティック教育実践研究所)	地域コミュニティを活用した被災者生活支援事業	スタッフ ボランティア 一般
2015/11/25	地域子育て講座 「親子で外遊び！」	森川 和加子氏 (せたがや子ども・ワカモノねっと)	地域コミュニティを活用した被災者生活支援事業（岩沼市）	スタッフ ボランティア 一般
2015/11/26	子育て・自分育て講座 「お外であそぼう！」	森川 和加子氏 (せたがや子ども・ワカモノねっと	赤い羽根チャリティホワイトプロジェクト	スタッフ ボランティア 一般
2016/ 2/ 2	地域・保護者交流による地域主体の遊び場づくり	菅 博嗣氏 (あいランドスケープ研究所)	「新しい東北」先導モデル事業	スタッフ ボランティア 一般
2015/ 3/ 5	子どもの遊びにかかわる大人の役割	天野 秀昭氏 (日本冒険遊び場づくり協会)	地域コミュニティを活用した被災者生活支援事業	スタッフ ボランティア 一般
2015/ 3/ 6	「地域住民と取り組む遊び場・遊び環境づくり」	天野 秀昭氏 (日本冒険遊び場づくり協会)	「新しい東北」先導モデル事業	スタッフ ボランティア 一般
2015/ 3/18	支援者のためのメンタルヘルスケア講座	畑山 みさ子氏 (　　)	地域コミュニティを活用した被災者生活支援事業	スタッフ ボランティア 一般

⑵ 長期インターン生の受入れ

住友商事「東日本再生ユースチャレンジ・プログラム」のインターンシップ奨励プログラムによる、９か月間にわたる長期インターン生１名を受入れた。本インターンは、2015 年度で３年目となった。

⑶ 市職員研修の受入れ　　9/16　9/27

せんだい・みやぎ NPO センターの実施する「仙台市職員研修（市民協働実践研修）」の研修生３名を受け入れた。

7．子どもの遊び・成育に関わる施策提言に係る事業

⑴ 被災地域の復興においての子どもの遊び場の重要性についての発信

事業８．として実施する遊び場づくりの活動を通し、被災地域の復興においての子どもの遊び場の重要性について様々な場で発信を行なった。被災地で際立って表れる課題を解決し他地域にも展開していくことを目的とした復興庁「新しい東北」先導モデル事業にも、引き続き取り組んだ（日本公園緑地協会との共同申請事業）。復興公営住宅や現地再建区域での遊び場の実践も行なって、子どもの育成や地域コミュニティづくりに子どもの「遊び場」が果たす役割を訴えた。

⑵ 県・市の行うパブリックコメント手続きにおける意見提出

宮城県・仙台市が実施した下記パブリックコメント手続きに対し意見を提出、子どもを育むための政策として遊び環境を充実させることや、子どもが自由に遊びながら防災に役立つ実践的な経験が得られる遊び場を防災拠点に設置することを提案した。

①「（仮称）宮城県子ども・子育て支援条例骨子案」
②「仙台市政策重点化方針２０２０（中間案）」
③「宮城県広域防災拠点基本設計（素案）」

８．行政との協働事業を含む先駆的、実験的なまちづくりや地域づくりの推進に係る事業

⑴ 海岸公園冒険広場の運営　【仙台市指定管理業務】

2015年度は指定管理者として、3期目の最終年度(5年目)であったが、東日本大震災の影響により、2011 年度以来の休園が続いている。そのため、指定管理業務は、昨年度に引き続き週 1 回の園内巡回と年 1 回の除草、および視察対応が中心となった。

園内の状況として、敷地内を暗渠で横切る二郷堀導水路の工事が 2014 年度末で終了し、2015 年度は本格的に公園本体の復旧・復興工事へと入っていった。また、周囲では国有林のかさ上げ盛り土工事（林野庁管轄）や、貞山運河復旧工事（宮城県管轄）、圃場整備事業（農林水産省管轄）が進み、園内外の状況は刻一刻と変わっていった一年だった。

このような中、2018 年予定の再開後の公園の機能＜震災前からの機能の復旧に加え、避難機能の拡充・震災記憶を継承する機能の付加＝海岸公園復興基本構想の基本方針による＞を見据え、単なる巡回等の管理のみではなく、より積極的な役割を担うよう努めた。具体的には、公園の被災状況やその後の変化（工事による人工的な変化から、自然環境の変化まで含む）の保存・記録や、復旧工事についての情報提供・提案を行なった。

また、休園中ではあるものの、地域に貢献することを意図して地元小学校と連携、総合学習の時間での見学について協力した。また、そのほか研究者等の視察も受け入れ、震災の教訓の発信にも力を入れた。その他、震災発生後の公園の状況を案じる震災前の公園利用者に対し、公園周辺地域での遊び場活動の現場（仙台市海岸公園冒険広場サテライト業務として実施する遊び場のほか、多くの自主活動としての遊び場）を中心に、現状や再開見通しなどを伝え続け、再開後の新たな公園への橋渡しになる取組みに努めた。

なお、指定管理業務は３月で終了したものの、「海岸公園冒険広場サテライト業務」は４月以降も仙台市より受託されており（下記⑵の①）、引き続き冒険広場の機能の一部の確保、記録等行っている。

⑵ 冒険広場周辺地域および岩沼市で開催する遊び場

拠点としていた海岸公園冒険広場が長期休園となるなか、引き続き、冒険広場からやや内陸部に入った六郷・七郷地域を中心に複数個所で「遊び場づくり」活動を展開した。

目的として、震災前から冒険広場が果たしていた「あそびを通して子どもの育ちを支える」役割を担うことに加え、東日本大震災によってさまざまな不安やストレスを抱える子どもたちに対して、日々の

暮らしの中で子どもたちが自らを癒せるような環境をつくることで広い意味での「心のケア」の役割を担うことをめざしている。また、「仮設住宅から恒久住宅への移行」が急速に進むなか、人のつながり：コミュニティづくりに貢献することも意識した。

＜若林区：七郷地域の遊び場＞　①～⑤

七郷地域で実施する遊び場は、①②③⑤の４か所が「荒井公共土地区画整理地区」内にあり、④は「荒井東土地区画整理地区」にある。同地区周辺は、仮設住宅（みなし仮設を含む）が多く立地すると共に、周囲で整備が進む他の２地区の区画整理地区と共に集団移転先も割り当てられた場所である。また、復興公営住宅の立地も進んでいて、新住民同士、新住民と旧住民、など多様な交流の場が期待される地域である。

2016 年度は、被災した荒浜小学校が七郷小学校に統合される最後の年だったこともあり、両校の児童のつながりが生まれる場としての役割も意識して臨んだ。

① **七郷あそび場（荒井４号公園）**　毎週土曜　計 50 回　のべ 4988 人
【仙台市海岸公園冒険広場サテライト業務】

休園中の海岸公園冒険広場が目指していた自由な遊び場づくりを、他の公園で実現する「海岸公園冒険広場サテライト業務」として実施している。活動場所の荒井４号公園は、七郷小学校と七郷児童館・市民センターに隣接し、幅広い子どもたちが集まりやすい立地条件になっており、事業目的である多様な遊び場の確保・冒険遊び場の理念の普及に資する場となっている。児童館・市民センターの事業にも協働で取り組むなど、連携を深めている。

② **伊在二丁目公園あそび場**（伊在二丁目公園＝旧荒井２号公園）　毎週水曜　計 51 回　のべ 4057 人
【赤い羽根チャリティホワイトプロジェクト】

25 戸の仮設住宅が立地すると共に、地区最大 200 戸のプレハブ仮設住宅に近接する。これら仮設住宅については入居者が大きく減少したが、一方で周囲に復興公営住宅も立地した。「上荒井公会堂あそびば」との連携も重視しており、乳幼児の親子も多く集まる。乳幼児の親子を対象の「ママ＆パパかふぉえ」（月２回午前中に実施）は、保護者中心で企画・運営する形が継続している。12 月には、近くに東西線六丁の目駅が開業、それに合わせたイベントも実施した。

③ **上荒井公会堂あそびば「ちびひろ」**（上荒井公会堂）毎週木曜　計 45 回　1162 人
【赤い羽根チャリティホワイトプロジェクト】

②にも比較的近い、町内会運営の公会堂（集会所）を利用しての、乳幼児親子を対象にした屋内中心の遊び場。町内会と連携することで、新住民と地元住民がつながる機会を生むことを意識しながら活動を展開している。

2015 年度は、遊び場を実施しながら、遊びに来る母親たちと相談し、母親たちによる自主運営の形にゆるやかに移行するための試行錯誤を始めている。

④ **荒井東復興公営住宅のひろばであそぼう**（荒井東復興公営住宅）毎週 月曜　計 50 回　のべ1082 人
【地域コミュニティを活用した被災者生活支援事業】

荒井東復興公営住宅に整備された広場で、2014 年 11 月より実施した遊び場である。2015 年度は、２期目約 100 戸が完成・入居となると共に、周辺の集団移転先、戸建て復興公営住宅、一般の分譲住宅への入居も進んだ。そんな中、同住宅に住む子どもと大人の交流の場になると共に、同住宅に住む人と周辺に住む人の交流の場となってきている。「下荒井公会堂であそぼ」とも連携して開催している。

⑤ **下荒井公会堂であそぼ**（下荒井公会堂）月２回程度 月曜日　計 22 回　200 人
【地域コミュニティを活用した被災者生活支援事業】

荒井東復興公営住宅に住み始めた乳幼児親子と周辺地域の人が交流するきっかけになる場を目指して、町内会運営の公会堂（集会所）を利用した乳幼児親子対象の遊び場である。2015 年度は、復興公営住宅・周辺の親子の利用が増え、初期の目的が実現してきていると感じている。

＜若林区：六郷地域の遊び場＞　⑥・⑦

津波被害を受けた若林区東六郷地区からの仮設住宅・みなし仮設住宅居住者の多くは、2か所の遊び場を実施する六郷地区に集中している。2015 年度は、集団移転先への住宅建設も進んだ。一方、津波被害の大きかった東部地区では、現地再建を選んだ住民のコミュニティづくりも課題になっている。

東六郷小学校の六郷小学校への統合も 2017 年３月と迫ってきており、引き続き両校の児童が本音で交わることのできる場としての重要性を意識しながらの活動となった。

⑥ **六郷あそび場**（六郷小学校校庭）　毎週日曜　計 44 回　のべ 1119 人

【地域コミュニティを活用した被災者生活支援事業】

六郷小学校は、自校学区域内にも浸水区域を抱えると共に、学区域すべてが津波被害を受けた東六郷小学校が移転・間借りしている六郷中学校にも隣接している。統合を前に、東六郷小学区からの通う子も増えた。2015 年度は校庭の全面改修が始まり遊び場活動も制約を受ける時期があったが、学校からも継続を期待されたため狭いスペースなりに活動を続けることとなった。狭い分、校庭外の公園（主に２か所の集団移転地内の公園方面）まで出かけていく機会も多く、その過程でそれらの場所から遊びに来ている子が多いこともわかった

⑥-2 **東六郷小で遊ぼう**（東六郷小学校〈本校〉校庭）　３月 20 日・27 日　のべ 70 人

校庭の全面工事で六郷小学校が使えなくなった３月後半の日曜日２回、東六郷小学校校庭（震災前まで使用していた＜本校＞の方）で遊び場を実施した。広々とした環境の中で遊び場を実施する可能性も感じた開催となった。

⑦ **ニッペリアあそび場**（若林日辺グラウンド仮設住宅）毎週木曜　計 50 回　567 人

【地域コミュニティを活用した被災者生活支援事業】

200 戸の仮設住宅での活動。仮設住宅に住んでいる子ども、自宅再建した家庭の子ども、津波被災を免れた子ども、それぞれの被災状況や通学している学校は違うが、遊び場に集い関係を築いてきた。2015 年度は、自宅を再建し転居する人も増えて残っているのは 30 世帯を切るに至ったが、住民が減少していくなか、残らざるを得ない恒例の住民と遊びに来ている子（仮設住宅外の子を含め）の交流の場にもなっていた。

最後の復興公営住宅の完成を７月に控え、仮設住宅閉鎖の見通しとなったため、５月いっぱいで活動を終了した。

＜その他仙台市内で継続的に取り組む遊び場＞　⑧～⑪

若林区六郷・七郷地区で始めた上記の巡回型遊び場の活動を知った人たちから声がかかって始めた⑧～⑩の３か所の遊び場に加え、2015 年度は青葉区片平地区で遊び場づくりに取り組んだ。

⑧ **卸町五丁目あそび場**（若林区：卸町五丁目公園仮設住宅）　第 1･3･5 土曜　計 23 回 のべ 437 人

【地域コミュニティを活用した被災者生活支援事業】

2015 年度、90 世帯あった入居世帯は１／３以下となり、秋には遊び場に来る人もぐっと減ったが、その分残って遊び場に来る子ども・大人たちのつながりは強まり「まるで家庭みたい」と話すような和やかな雰囲気の遊び場になった。仮設住宅の中に一緒に遊べる子がいなくなったため、仮設住宅外の親子にも声かけをし、子ども同士で遊べる状況をつくった。

住民の減少に伴い隔週で開催していたが、残っていた子どものいる家庭も転居が決まり、4月2日をもって活動を終了することとなった。

⑨ **中野小学校あそび場**（宮城野区：中野小学校・中野栄小学校校庭）計５回 295 人

【地域コミュニティを活用した被災者生活支援事業】

学区全域が津波被害を受け、中野栄小学校に間借りし開校している中野小学校の校医から相談を受けて

始まった放課後の遊び場である。2016 年３月の閉校予定で、2015 年度は最後の一年、児童数も約３割減って 40 人となった。

今年度は学校行事の関係で回数も限られ、短い時間を待ち構えたように遊ぶ子たちの姿が見られた。回数は少なくても手慣れた様子を見せる子どもたちの様子に、これまでの積み重ねも感じた。

遊び場は 1/27 をもって終了したが、転校先が若林区内で遊び場を開催している地区の子がいたり、多くの子が移り住む田子西地区での遊び場開催協力の相談もあり、ここでの出会いが次につながっていくことが期待される。

⑩ 若林小学校あそび場（若林区：若林小学校校庭） 月１回　計 11 回　 のべ 1083 人
【赤い羽根チャリティホワイトプロジェクト】

若林小学校・若林区中央市民センターからの「放課後子どもたちが思いっきり遊べる場がない」との相談により始まった活動は、毎月１回の開催を継続して３年以上になった。2015 年度は、隣接する若林西復興公営住宅での交流活動へも協力し幅をひろげた。また、地域住民との関わりを増やすため、おやじの会の行事への協力などにも取り組んだ。

⑪ 片平地区「のりっぱであそぼう」（青葉区：まちなか農園藤坂隣接の空地） 11/15～　計５回
【「新しい東北」先導モデル事業】

2015 年に完成した復興公営住宅はじめ、新たに移り住む方も多い片平地区において、新旧住民を対象に、子どもも大人も自由に遊び出会える場づくりを目指して取り組んだ。西公園プレーパークの会との協働事業。当初は「まちなか農園藤坂」のイベントと連携する形でスタートし、徐々に場の可能性を引き出している。近隣住民の主体的な関わりも引き出し、今後につながる端緒を得た。

＜岩沼市で取り組む遊び場＞　⑫・⑬

⑫ 里の杜あそび場（岩沼市：里の杜中央公園） 計 30 回　のべ 856 人
⑫-2 玉浦西あそび場（岩沼市：玉浦西地区うぐいす公園）　 11 月 14 日
【～3 月：地域コミュニティを活用した被災者生活支援事業／4 月～：赤い羽根チャリティホワイトプロジェクト】

岩沼市内のプレハブ仮設が全て集まる里の杜地区の公園で始まった遊び場で、仮設住宅に住む子たちと共に地元の子たちも遊びに来る場となった。2015 年度は、被災地で最も早いと言われる集団移転事業・災害公営住宅建設も進み、仮設住宅居住者が大きく減っていった。７月には、仮設住宅住民の移転先である玉浦西地区で「まち開き」も行われたが、同イベントでは、里の杜あそび場の運営に参画する地域住民と一緒に、同地区内の公園で子どもの遊び場のコーナーの運営を担った。また 11 月には、同地区内の集会所で遊び場を試験的に実施した。地区住民から引き続き遊び場の開催を期待する声を聴くこともあるため、今後のかかわりも検討されている。

里の杜中央公園でのあそび場は、今年度、たき火を使用できるようになり、遊びの幅が広がったのみならず、火を囲んでの大人同士の交流が進んだり、子どものおやつ作りを地域の保護者がサポートするなど世代間の交流も深まった。

里の杜あそび場は、３月をもって被災者支援事業としての役割は終え、地域住民中心の運営へ移行、「いわぬまあそび場の会」学生自主活動団体「にこにこキッズ」主催の活動を当会が支援する形となった。仮設住宅の解体はすでに進んでいるが、今後も地域コミュニティの場となることが期待されている。。

⑬ 楽農村で遊ぼう（岩沼市：産地直売所「朝どり」＋市民農園「楽農村」） 計９回 のべ 856 人
【7～3 月：「新しい東北」先導モデル事業／6 月・4 月～：赤い羽根チャリティホワイトプロジェクト】

岩沼市玉浦地区の現地再建区域の農家が運営する市民農園における、農地の環境を活かした遊び場。2015 年度は、田植え・稲刈りなどの機会も活かしながら年間を通して活動した。土や水・田畑と触れられる環境は都市部に暮らす親子からも好評で、交流人口を生む効果も見られる。2015 年秋より、同地で始まった交流サロン活動「グリーンリーフ」とも連携することで、より幅広い地域住民とのつながりづく

りにつなげていくことを目指している。

⑶他団体の実施する企画への開催支援等

前年度に引き続き、遊び場活動実施地域の町内会や復興公営住宅自治会、市民センター等の夏祭りや子ども企画への協力を行なった。

① 七郷市民センター・七郷小おやづの会　工作教室　6/6
② 玉浦西地区「まちびらき」 7/19
③ 若林小おやじッ子クラブ行事　7/25
④ 上荒井町内会「上荒井夏まつり」 8/1
⑤ 荒井東・荒井広瀬町内会 夏祭り　8/1
⑥ 七郷･沖野･沖野マイスクール･六郷･蒲町児童館連携事業「ちびっこフェスタ」　9/28
⑦ 七郷市民センター「秋だ！みんなで芋煮会 2015」 10/4
⑧ 若林西復興公営住宅子どもクラブ　2/21
⑨ 農業園芸センター「オープニングイベント」 4/26

⑷遊び場づくりと連携した、大人も集まれる「縁側倶楽部」等の支援活動の実施

遊び場と並行して実施している「ものづくり＋お茶っこのみ（交流サロン）」を、仮設住宅や復興公営住宅の集会所で継続実施し、大人が集うきっかけづくりを行なった。また、臨床心理学やカウンセリングの専門家にも入ってもらい住民のフォローをした。また、交流活動に取り組む他の支援団体と連携・協力した事業を行なうと共に、随時相談を受けた。

① 若林日辺グラウンド仮設住宅「えっちゃんおかんの縁側倶楽部」 月１回　計 10 回実施
② 荒井東復興公営住宅集会所「荒井東縁側倶楽部」月１回　計 10 回実施
③ 若林西復興公営住宅集会所「若林西復興公営住宅縁側倶楽部」11/14・2/17　計２回実施
④ 岩沼市：里の杜仮設住宅「里の杜縁側倶楽部」南・西・東集会所 2015 年６月で終了
⑤ 岩沼市：朝どり＋楽農村「交流サロングリーンリーフ」の企画・実施協力
⑥ その他、他団体と連携した支援活動の企画・実施

⑸沿岸部の環境調査

未だ復旧の見通しが立っていない仙台市沿岸部において、生き物の様子から被災地域の「再生」を感じるきっかけとしつつ、今後の再生のあり方も探ることを目的に、季節ごと（年４回）、海岸公園冒険広場を中心に沿岸部の生き物の再生状況を調査した。2015 年度はこれまで５年間の記録を分析、冒険広場が樹林性の生き物の拠り所となっていることも見えてきました。

周辺部で環境調査等の活動に取り組む他団体との連携にも踏み出しています。

⑹仙台平野の居久根再生「大内さんちのイグネ再生プロジェクト」

【赤い羽根チャリティホワイトプロジェクト】

津波で被災した若林区六郷東部地区の居久根再生を目指した活動。2015 年度も、所有者の大内氏のほか、FEEL Sendai ユースカレッジ、宮城大学地域連携センター、ミモザガーデナーズ、リルーツ、東北学院大学学生、近隣の幼稚園、一般市民有志と共に活動しました。幼稚園の農業体験や、被災した畑の一角での花畑づくりなどを行っている。

⑺「ふるさとの杜再生プロジェクト」植樹祭　3/25

海岸公園蒲生地区スポーツゾーンで開催された植樹祭に参画、手作り凧作りのコーナーを担当した。

「事業８.」各取組みの財源別整理

		海岸公園冒険広場 指定管理業務	海岸公園冒険広場 サテライト業務	地域コミュニティ活動 を活用した 被災者生活支援事業	赤い羽根 チャリティホワイト プロジェクト	「新しい東北」 先導モデル事業
遊び場	◎ 冒険広場	◎（～3月）				
	① 七郷		◎			
	② 伊在二丁目（旧荒井2号）				◎	
	③ 上荒井公会堂				◎	
	④ 荒井東復興公営住宅			◎		
	⑤ 下荒井			◎		
	⑥ 六郷			◎		
	⑦ ニッペリア			◎		
	⑧ 卸町五			◎		
	⑨ 中野小			◎		
	⑩ 若林小				◎	
	⑪ 片平地区					◎
	⑫ 里の杜（岩沼）			○（～3月）	○（4月～）	
	⑬ 楽農村（岩沼）				○（6月・4月～）	○（7～3月）
お茶っこ飲み等支援活動				○	○（若林西・楽農村）	

9．組織運営について

「震災復興後」を見据え、ミッションを実現するために団体としてどんな取り組みを進めていくべきか、中期的ビジョンの検討を始めた。

2014 年 12 月に認定 NPO 法人になったことを受け、適正な事務を行える仕組みの整備を進めた。一方、会員・寄付者の増加への取り組みについては、課題となっている。